



第389号 平成22年12月1日  
発行所 京都市学校医会  
京都市中京区間之町通竹屋町下ル  
楠町601-1 こどもみらい館 2階  
TEL (075) 256-0351  
FAX (075) 241-3568  
発行人 奥村正治

## 第60回全国学校保健研究大会と第41回全国学校保健・学校医大会の開催

会長 奥村正治

平成22年11月18日（木）と19日（金）に、第60回全国学校保健研究大会が、11月20日（土）に第41回全国学校保健・学校医大会が群馬県の前橋市で開催された。前半の研究大会は文部科学省が中心になり、後半の学校医大会は日本医師会が主催である。両者とも担当は群馬県となり前半は群馬県教育委員会が主体となり、後半は群馬県医師会が主体となり開催された。当然の事となるが、前半は教育関係者が多くなり、後半は医師の集いである。学校保健においては、医療側の学校歯科医や学校薬剤師も学校医と同様であるが、両者とも前半の終りがけに関係団体が主催する行事として11月18日（木）に、第60回全国学校歯科医協議会、第60回全国学校薬剤師大会が開催されており、医の部だけが別行動を取っている形になっている。

第60回全国学校保健研究大会は、文部科学大臣表彰と記念講演が初日にあり、京都よりの大臣表彰は、眼科の奥沢康正先生、歯科は郷健先生、薬剤師は福知山の藤木祥治先生が受けられました。学校安全で松ヶ崎小学校も受賞されました。2日目は10課題の部門に別れ、課題別研究協議会が行われました。

20日（土）の学校医大会は、朝10時より

第1分科会「からだ・こころ（1）」

感染症・予防接種・生活習慣病

第2分科会「からだ・こころ（2）」

学校検診・健康教育

第3分科会「からだ・こころ（3）」

実態調査・こころ・性教育

第4分科会「耳鼻咽喉科」

第5分科会「眼科」

の5つの分科会に分れ、それぞれ発表・討論が行われた。

京都からは、福田潤先生が第2分科会で、「幼児・児童・生徒の運動器機能不全対策について」—幼児保健・学校保健・学校体育の連携を柱に—長村吉朗先生が第1分科会で、

「京都市立学校における新型インフルエンザ流行に関する事後検討」

奥村正治が第1分科会で、

「政令指定都市におけるⅢ期麻しん・風しん（MR）混合ワクチン集団接種について」

の3題の発表をしまりました。

午後からは「学校におけるアレルギー疾患の現状と取り組み」と題してシンポジウムが開かれ、その後特別講演が曹洞宗東善寺住職の村上泰賢氏による「幕府の運命、日本の運命—小栗上野介の日本改造—」の講演があり、来年は静岡県が当番の様である事も判明し、閉会となった。

シンポジウム、特別講演に関しては別報告をご覧ください。

群馬県の県庁所在地の前橋で開催されたが、県庁所在地という事もあるのか、静かな町で、人通りも少なく、活気の少ない町の印象であった。

御興味のある方は、大会誌を事務局に置いておきますのでご一読いただけたら・・・と存じます。

# 第41回全国学校保健・学校医大会

## シンポジウム「学校におけるアレルギー疾患の現状と取り組み」

副会長 林 鐘 声

11月20日(土)、上記シンポジウムが開催されました。財団法人日本学校保健会が平成20年3月に刊行し、文科省の指導で全国の公立小学校、中学校、高校に配布された「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」と「学校生活管理指導表」の活用が十分でないことから、その普及に向けての群馬県の取り組みを示すものでした。座長の森川昭廣群馬大学名誉教授と発表者の1人である教育委員会の高橋慶子氏は、このガイドラインを作成した委員であったことから、普及への旗振り役を務めるべく、この課題がとり上げられたのでしょう。

### 基調講演

『学校生活管理指導表に基づくアレルギー疾患の取り組み』

群馬大学大学院医学系研究科

小児科学分野教授 荒川 浩一

### シンポジウム

『学校における気管支喘息児の問題点とその対応』

重田こども・アレルギークリニック院長  
重田 誠

『アトピー性皮膚炎は増えているか？』

視て、触れた30年間の学校健診から』

倉繁皮膚科医院院長 倉繁田鶴子

『学校生活における食物アレルギー・アナフィラキシー 群馬県における現状と対応』

伊勢崎市民病院副医療部長

兼小児科主任診療部長 前田 昇三

『学校におけるアレルギー疾患への対応』

群馬県教育委員会スポーツ健康課  
主任指導主事 高橋 慶子

基調講演：学校生活管理指導表に関連したことを述べます。心臓検診や腎臓検診では検診から抽出された児童生徒に管理指導表が渡されますが、これは違って、保護者からの希望によって、あるいは学校での特別な配慮が必要と考えられる児童生徒に渡さ

れて、主治医が書くこととなります。従って文章料が発生します。アレルギー疾患をもつすべての者に学校が提出を求めるものではありません。ちなみに、京都市では必要と考えられる事例については学校医と相談した上で渡すことになっています。

学校保健会の管理指導表には緊急連絡先として医療機関名の記載欄があります。連絡がつかない時の責任問題にも発展しかねないことから、群馬県ではその欄を消去した独自のものを使用しているそうです。京都市でも、救急搬送で大きな弱点がないことから群馬県にならってもよいのではないのでしょうか。

適切な管理指導表を作成するためには、主治医がガイドラインの内容を熟知しておくのは当然です。しかし、アレルギー非専門医にとってはなかなか大変だろうということで、群馬県ではガイドライン要約版を作製し、地区医師会を經由して無料で提供したそうです。京都府、京都市では考えられない"力"の入れようでした。

今回、触れられませんでした。逸脱した管理指導表を出す医師は必ずでてくる筈です。現場の混乱の調整役は、京都市では学校医会が当面担うことになると思いますが、本来は管理指導表を管理する組織があって、そこが調整する機能を果たすべきであり、今後の課題です。

気管支喘息：体育などでの運動誘発性喘息(EIA)や林間、臨海学校などの学校行事における喘息発作の問題など従来よりあったことから、学校現場に重点を置いた具体的な発表でした。高崎市での養護教諭、担任教諭、患者家族へのアンケートでは、担任教諭の83%はEIAについて知らないことなどを始め、喘息発作の対応など、喘息に対する知識が不十分で、喘息の子の存在を過小評価していることが明らかとなっていました。喘息の理解不足が"イジメ"の要因となることもあることが報告されていました。養護教諭からは、喘息児の主治医との連携が不十分、保護者からは喘息発作時の学校の対応について不安であることなどが問題として挙っていました。管理指導表の活用の必要性がわかる発表でした。

アトピー性皮膚炎：前橋市では皮膚科による学校検診が1981年より始まり、1988年には全国初の皮膚科校医制が確立し、今に続く活動の報告でした。1982年と2010年のアトピー性皮膚炎の比率をみると、小学校1年生では3.2%から10.3%、中学1年生では2.1%から6.4%と罹患率が上昇しているとの検診結果、更には、成人型アトピー性皮膚炎への移行を防ぐためには中学期にどう対処するかが重要だとする指摘は、皮膚科専門医の発言として傾聴させていただきました。

食物アレルギー・アナフィラキシー：伊勢崎市の養護教諭へのアンケート結果を中心とする報告でしたが、一般的な教育講演と変らないように聞きました。基調講演と重なるところもあり、後からの発表ということで損した点もあったように思います。群

馬県ではエピペンの処方33人、うち15人が学校へ持ってきているとの事でした。この領域ではエピペンの話で止まっているように思います。

教育委員会からの報告：群馬県医師会、群馬大学大学院と連携を深めて、学校におけるアレルギー疾患対応検討会議をもち、群馬県独自のガイドライン要約版や管理指導表を作成したことや、エピペンを教職員が正しく理解するための資料（CD-ROM）を学校や市町村教育委員会に提供するとともに研修会を開催するなど、積極的な活動の報告でした。アレルギー疾患に対する管理指導表は心疾患や腎疾患のものとは異なる性格をもつことから、教育委員会の役割は、それらに果す役割より大きなものがあります。そのため、積極的な活動となったものと理解しました。

---

## 第41回全国学校保健・学校医大会の特別講演を聴講して

副会長 竹内 宏 一

特別講演は、曹洞宗21代目東善寺住職村上泰賢氏の「幕府の運命、日本の運命—小栗上野介の日本改造」と題する講演でした。さすが元NHK文化講座、明治大学博物館の講師だけあって、お寺の住職とは思えない程の流暢かつ解り易い講演で、聴講者が1時間では短いと思われたような素敵で人を引きつける講演でした。話の内容は日本の近代化に尽した隠の立役者『小栗上野介』という人物の、その業績を中心としたものでした。

小栗上野介（1827～1868年）は、徳川家の旗本小栗家（神田駿河台）に生まれ、1860年（万延元年）34才の時、井伊大老の抜擢により、日米修好通商条約推進の遣米使節（目付、監察）として、米艦ボツハタ2号で渡来、さらに二隻の船を乗り継いで地球一周して帰国。その後の8年間幕府をささえ、日本の近代化を押し進めた人物です。慶応4年3月幕府から帰農許可を得て、領地である権田村に移住、東善寺を仮住まいとして観音山に住宅建設を進めました。65日後の同年4月6日、西軍（明治新政府軍）のため罪なくして水沼河原で家臣3名とともに斬首され、翌7日、養子又一も高崎城内で家臣3名とも斬首されました。

「明治の父」作家司馬遼太郎は、「明治という国

家」のなかで日本近代化に尽した小栗上野介の業績をたたえ「明治の父」と語っています。

彼の業績には、下記のようなものがあります。

横須賀造船所建設、日本最初のフランス語学校設立、フランス式陸軍制度の採用訓練、鉄鋼山の開発、ガス灯設置の提唱、金礼発行など金融経済の立て直し、群馬制度の提唱、森林保護の提唱等々他にも数々あります。これらの事が現在の日本の基礎となっているのです。

「幕府の運命に限りがあるとも、日本の運命には限りがない……」「一言で国を滅ぼす言葉は『どうにかなろう』の一言なり、幕府が滅亡したるはこの一言なり」等の小栗上野介の言葉があります。

この人物像の講演を聴き、歴史的人物のなかに有名にならなかったが、日本近代化に重要な貢献をされた方々が沢山おられる事を痛感し、自己の勉強不足を反省すると同時に、フランスの作家サン・テグジュペリの「星の王子さま」の言葉を思い出しました。

「大切なことは目に見えないんだよ」

日本の今後の進路を憂いながら上越新幹線から東海道新幹線に乗り継いで、やっと京都駅に着きました。

### ●精神衛生研究班からのお知らせ

発達障害・不登校・保健室登校・こころの問題で悩んでおられる児童・生徒に対し、学校はチームで対処することを望んでおられ、学校医のアドバイスは今後ますます必要とされることと思います。

子供のこころの問題をテーマに京都大学：青木健次教授を講師に招き、毎月1回抄読会を開き、研修を行っております。ご興味のある先生方の参加を歓迎いたします。1月からの読本をご紹介します。

#### アスペルガー症候群・大人の生活完全ガイド（保健同人社：杉山登志郎他）

抄読会の開催日・場所

日時：原則 毎月第二木曜日

場所：中京区間之町通竹屋町下ル楠町 こどもみらい館2階 京都市学校医会会議室

※詳細は京都市学校医会事務局(TEL 075-256-0351)までお問い合わせください。

## 第7回 常任理事会

平成22年12月11日

於 事務局

出席者 奥村会長，林・竹内副会長，杉本常任理事，  
佐野眼科学校医会副会長，星谷・鈴木各耳  
鼻咽喉科専門医会理事，長村監事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 平成22年度 社団法人京都歯科医師会会員大会 11/6 奥村出席
2. 色覚相談 11/9、11/16、11/30、12/7 各2名 4月から12月 計38名
3. 精神衛生研究会 11/11、12/9 8名参加
4. 第60回 全国学校保健研究大会 11/18、11/19 奥沢，奥村出席 於：前橋市
5. 第41回 全国学校保健・学校医大会 11/20 林，竹内，星谷，鈴木，長村，奥村出席
6. 子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業 平成22年度 第1回連合協議会 11/24 奥村出席
7. ワンポイント相談 11/25 杉本，長澤出席
8. 第59回 近畿医師会連合学校医研究協議会総会 11/28 於：兵庫県
9. 平成22年度 京都市学校保健会表彰式並びに研究発表会 12/4 於：京都御池創生館
10. 平成22年度 学校保健関係者表彰祝賀会・懇親会 12/4 於：京都ロイヤルホテル&スパ

11. 京都市小学生駅伝競走記録会 12/5 星谷，奥村出席
12. 第2回 給食事業安全衛生委員会 12/10 竹内出席 調理員トイレ増設（男女別），感染性胃腸炎の消毒マニュアル化
13. その他 予防接種開始

### <協議事項>

1. 第25回 京都市小学校「大文字駅伝」本選出席医について 2/6 林，竹内，奥村参加
2. 平成23年度 京都市学校医会総会講師について 霊明神社代表役員八世神主 村上繁樹先生
3. 平成23年度 感染症講演会講師，座長について 井本，杉本，福持の中より決定予定
4. 大文字駅伝大会事前整形外科的検診について 20,000円×4名×2日を予定
5. 仮決算について
6. 賞与支払について 大本事務所と相談後，決定
7. その他

### <関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 12/14
2. 腎臓相談 12/14
3. 大文字駅伝大会選手整形外科的検診 第1日 12/25，第2日 1/8
4. 京都府歯科医師会「平成23年 新年互礼会」 1/5 奥村出席
5. 第8回常任理事会，教育委員会との新年会 1/8 於：れんらく船 理事会：午後5時30分～，新年会：午後6時30分～